

ゆうあい報 おだぴたる



社会医療法人

祐愛会織田病院 ODA REGIONAL MEDICAL CENTER

発行者 祐愛会織田病院企画室

責任者 織田 正道

20年の時をかけ、『ゆうあいビレッジ』が完成

— あらゆる介護ステーションに対応 —

社会医療法人 祐愛会織田病院 理事長 織田 正道

高齢化の進展に伴い、退院後の在宅生活において、医療・介護の支えが必要となれるお年寄りが増えはじめた20年前、我々は介護分野へウイングを広げました。その柱となったのが、あらゆる介護ステージに対応可能な『ゆうあいビレッジ』構想でした。そして、この6月に「グループホーム3丁目」の竣工をもって、この構想は、九分通り完成しました。

・介護予防から重度要介護まで対応可能な体系的な整備

『ゆうあいビレッジ』は、病院から距離にして2km、車で5分の場所にあります。総面積は8000坪。その中に介護老人保健施設(80床、以下老健)を中心に、グループホーム3棟(27床)、特定施設(27床)、小規模多機能(定員29名)、サテライト小規模多機能(定員19名)、デイケア(50名×2ヶ所)、フィットネス(20名)、居宅介護支援事業所など、介護予防から重度要介護までの対応を体系的に整備し、あらゆる生活支援機能を可能としています。現在、我々が手掛ける介護保険分野18事業所の多くが、この「ゆうあいビレッジ」に集合しています。

・『ゆうあいビレッジ』のコンセプト
この『ゆうあいビレッジ』のコ

ンセプトは、公園の中に施設群があり、子供からお年寄りまでが集える場所。また、若い人達が、将来の夢と希望を持ちながら働くことができる環境。お年寄りが、やすらぎを持って、ゆとりのある老後を楽しめる住まい、そのような空間をイメージしました。敷地内の建物は、すべて白い窓枠と、煙突があり、北欧風の施設デザインになっています。さらに、この庭園には四季の季節を感じさせる花が咲き、緑に囲まれた環境は、お年寄りに豊かな感情・感性をよみがえらせます。施設や住宅は、すべてをユニバーサルデザイン化しており、利用される方々が便利で、使い勝手のよい仕上がりになっています。

・地域包括ケアシステムをバックアップする社会の公器

この「ゆうあいビレッジ」は、祐愛会だけのものではなく、社会の公器であり、「地域の皆さんのもの」だとの考えで運営しています。ですから、基本的に老健入所者以外は「かかりつけ医」の先生に従来通り、訪問診療をしていただくようにしています。

また、地域に開かれ、多くの方々が集う機会を設けるために、年間を通じて各種イベントを開催して

います。先日、20周年記念に際して開催した「ゆうあいふれ合いフェア」は、子供からお年寄りまで老若男女1000名近くの参加

者があり大盛況でした。今後はボランティア・コーディネーターを育成し、さらに多くの人が集える空間にしていきたいと思っています。

介護分野：「地域を支える仕組みづくり」



平成30年度介護報酬改定と介護老人保健施設

ゆうあいビレッジ施設長 千々岩 親幸

介護老人保健施設は介護保険開始時に介護保険3施設のひとつとしてスタートしました、その後3施設は高齢者の増加、社会保障費の増大などの影響で介護報酬改定のたびに運営の基準などに変更が加えられ、現在介護療養型医療施設は廃止（介護医療院が新設）、特別養護老人ホームは要介護度3以上の中重度者用の介護施設になりました。そのような変化の中、今年の改定で介護老人保健施設（以後老健）の定義にも変更がありました。

従来の定義では「要介護者に対し、施設サービス計画に基づいて、看護、医学的管理の下における介護及び機能訓練その他必要な医療並びに日常生活上の世話を行うことを目的とする施設」となっていました。今回の改定では利用者についての具体的な文言が加えられ、「要介護者であって、主としてその心身の機能の維持回復を図り、居室における生活を営むことができるようにするための支援が必要である者に対し、施設サービス計画に基づいて、看護、医学的管理の下における介護及び機能訓練その他必要な医療並びに日常生活上の世話をを行うことを目的とする施設」という定義となり、要介護者の中でも老健退所後は自宅やその

他の居住施設で生活を営むことができる方やその可能性がある方に対して支援を行う施設と再定義されました。このように今回の改定で3施設は明確な機能別の方向性が示されたこととなります。

老健の方向性は以前の改定から少しずつ示されていました。前回の改定から、老健は「在宅復帰強化型」「在宅復帰支援型」「従来型」3種類に分けられ、報酬額も異なっていました。そして今回さらに「超強化型」「在宅強化型」「加算型」「基本型」「その他」の5類型に分類されました。介護報酬額も「超強化型」では増収、「その他」では減収と収益が段階的に減るような配分となっており、実際上「その他」老健は今後老健として運営していく事が困難な状況となりました。

老人保健施設協会の調査では従来の類型では「強化型」17%「支援型」31%「従来型」52%でしたが、今回の改定で「超強化型」4%「在宅強化型」10%「加算型」32%「基本型」36%「その他」18%程度になると推測されています。祐愛会の老健「ケアコートゆうあい」はこれまで「強化型」老健でしたが、今改定の「超強化型」の基準もほぼ満たしていたため、改定実施時より「超強化型」老健として運

営していくことができました。推測では全国4000施設ほどある老健のうち200施設弱くらいしか「超強化型」老健は存在しないこととなります。このような厳しい基準をクリアできたのは病院との連携強化、様々なサービス機能を持ち利用者の希望に応じたサービス提供が可能であったということとあります。何よりも法人スタッフや脱施設化、在宅復帰へ向けて努力してきた成果だと思われ

ます。今回の「超強化型」の基準では50%を超える在宅復帰率はそのまま残り、新たに加えられた項目としてリハビリスタッフ・支援相談員数の充足、「入所前後訪問指導割合」や「退所前後訪問指導割合」があり、今後の老健は単に在宅復帰を行なうだけではなく施設から在宅へと切れ目のない在宅支援サービスを行なう機能を持つように期待されているものと思われました。このような病院・施設からの在宅・居住系施設への切れ目のない支援サービスは地域包括ケアシステムを構築する上で欠かせない機能であり、今回の改定で施設機能のさらなる明確化が図られた形となりました。

ゆうあいビレッジに新たなステイジが加まりました。
グループホームゆうあい3丁目オープン

グループホームゆうあい管理者 北川 英俊

昨年の12月に建設が始まった「グループホームゆうあい3丁目」が、7月1日にオープンしました。平成12年のグループホーム1丁目、平成16年のグループホーム2丁目に続き、今回で3棟目の開設となりました。全室個室の9部屋からなり、中央に約44畳のリビング・キッチンが配置されています。リビングからはリニールアルされた「ふれあいガーデン」が一望でき、四季の移り変わりを常に身近に感じることが出来ます。外観は写真で分かるように、モダンクラシックなチャペル風に造られており、ゆうあいビレッジの新たな顔として煌めいています。



認知症の方は、環境によっては混乱をきたし不自由な生活を強いられるため、介護者がいつも傍にいて、困った時にすぐにお手伝い出来る家庭的な環境が求められています。3棟目のグループホーム開設は、高齢者の4人に1人が認知症あるいはその予備群と推計されている今日、地域からも待ち望まれたものでした。認知症の方が、新たに増えた「生活の場」で、安心してその人らしく生活できるように職員一同心を込めてお手伝いしていきたいと思えます。

『祐愛会織田病院乳腺センター開設にあたって』

乳腺外科 中村 淳

この度、2018年4月より乳腺外科専門外来を新たに開設し、祐愛会織田病院乳腺センターとしてスタートしました。

当院では昨年6月にトモシンセシス撮影(3Dマンモグラフィ)が可能になった最新のマンモグラフィを導入し、10月に佐賀大学医学部付属病院で乳腺外科チーフをしていた中村が赴任し、伊山・中村の二人体制で乳腺外科専門外来を担当することとなりました。午前中は月曜日・土曜日の毎日、火曜日・木曜日は午後外来を開き、午前中の受診が難しい患者様や土曜日しか休みが取れない患者様のニーズにも応えられるようにいたしました。乳癌はもちろんのこと、良性腫瘍や乳腺症、乳腺炎、女性化乳房などすべての乳腺疾患の診療を行っており、腫瘍や乳頭分泌異常がある患者様だけでなく、乳房痛やちよつとした違和感などにも対応いたしますので、是非お気軽にお問い合わせいただきたいと思います。

乳癌の診療におきましては、検査業務からマンモグラフィ、乳腺エコー、MRIなどの画像診断、針生検・細胞診による確定診断、外科手術と術前・術後の薬物療法、さらには転移・再発乳癌に対する薬物療法まで一連の診療を専

門の医師が責任を持って行います。放射線治療に關しても他施設との連携体制を構築しており、必要な患者様に適切なタイミングで標準的な治療を提供します。マンモグラフィと乳腺エコーを担当する放射線技師、臨床検査技師は女性スタッフが充実しており、患者様の希望に応じて女性のみでの対応も可能となっています。また、トモシンセシスは、近年マスコミ報道でも問題となっている高濃度乳房において、通常のマンモグラフィでは発見が困難な病変の検出に優れた断層撮影技術で、非常に期待されている最新の診断モダリティです。

ここ数年当院における乳腺疾患の手術件数は増加傾向にあり、昨年は50例を超える手術(そのうち初発乳癌手術は41例42病変)を施行させていただきました。標準的な乳房切除術や部分切除術、腋窩リンパ節郭清に加えて、リアルタイム遠隔病理診断システムによりセンチネルリンパ節や部分切除における乳腺断端の検索なども術中迅速検査を行っておりますので、大学病院や県立病院などの大病院にも引けを取らない手術を提供できると自負しております。現在、新たな取り組みとして、より小さな傷で根治性と整容性の両立を目

指した乳腺内視鏡手術や、当院の形成外科とコラボレーションした一次乳房再建(同時再建)も導入準備を進めており、患者様ひとりひとりのニーズにあった専門性の高い治療を提供できる環境を整えていきたいと考えております。

地域の先生方には、日頃から大変お世話になっておりますが、より一層、先生方や患者様を選んでいただける病院を目指していこうと思っております。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

第16回ゆうあい公開セミナー「ロコモティブシンドローム」
「自宅施設でできる長生きを支える足腰づくり」開催

連携センター課長 神代 修

平成30年4月27日(金) 18時より、鹿島市生涯学習センターにて「ゆうあい公開セミナー」を開催しました。一般市民の方や福祉施設で働くスタッフの方々206名に参加いただき、本年度のグループ方針である、「いつまでも元気で活躍できるエイジレス社会を築くため、ロコモティブシンドロームの予防に継続的に取り組む」活動の一環としてのセミナーになりました。セミナーは、当院内科医師 大石 透先生による講演と、ゆうあい一座によるわか劇で構成しました。

を会場の皆様にも一緒に体験していただきました。

ロコモティブシンドロームとは、「運動器の障害のために移動能力の低下をきたし、進行すると介護が必要になるリスクが高い状態」のことです。予防の目的は「健康寿命」の延長です。いつまでも健康に過ごすためには、なによりロコモティブシンドロームにならないことが大切です。適切な運動と良い食習慣で足腰が弱るのを防ぎ、「ロコモ予防」に努めましょう。

大石先生の講演内容は

- ① 最新まで健康に過ごすには？
- ② ロコモティブシンドロームとは？
- ③ ロコモティブシンドロームの原因は？
- ④ ロコモティブシンドロームかどうかを知るには？
- ⑤ ロコモティブシンドロームになつたら？

と一般の方々にもとても理解しやすい内容でした。その後、ゆうあい一座によるわか劇で、実際の家庭での出来事を面白おかしく演じながらロコモティブシンドロームについての理解を深めていただき、「自宅でできるおすすめ運動」



骨粗鬆症マネージャー資格取得

リハビリテーション科 課長 太田安幸

骨粗鬆症マネージャーとは、骨粗鬆症に関する基本的知識と技能を習得したメディカルスタッフのことをいい、一般社団法人日本骨粗鬆症学会が認定している資格です。骨粗鬆症マネージャー認定者は2018年4月1日現在、総数2499名、職種別比率は看護師（保健師、助産師を含む）51%、

響等で骨が脆くなり、骨粗鬆症になると、一般的には考えられないちよつとした衝撃だけでも骨折をきたし、それが原因で寝たきり状態になってしまうことも少なくあります。超高齢社会に突入したた現在、骨粗鬆症マネージャーの役割はますます重要になってくるものと思われまゝす。

理学療法士19%、薬剤師18%、診療放射線技師5%、管理栄養士3%、その他4%です。2014年10月から資格認定試験が開始され、翌年に第1期680名が認定されました。いくつかの受験要件を満たした上で、試験に合格すれば、この資格を取得することで、今後ますます需要が増加する高齢者医療における専門性を高めることができます。骨粗鬆症の専門家はまだまだ少ないため、認定を目指すメデカルスタッフが増えていくことを望みます。

私は昨年認定試験を受験し、資格を取得しました。

今年は九州で第20回日本骨粗鬆症学会が開催されます。詳細は以下のとおりです。

認定者は、骨粗鬆症の予防や診

会期	2018年 10月26日(金)
会場	～ 10月28日(日) 長崎ブリックホール
会長	伊東昌子

(長崎大学ダイバーシティ推進センター) 教授

す。主な仕事は、医師と共に骨粗鬆症が原因で骨折した人に対して正しく評価を行った上で、個々に適した治療を実施していくこと、また、多職種と連携を図りながら日常生活上の指導やアドバイスを行い、再び骨折することがないようにチームでサポートしていくことなどです。加齢や投薬の影響

骨折した患者の転倒リスク評価、症状改善を目指す運動療法プログラム の策定、地域における骨粗鬆症予防の普及など骨粗鬆症マネージャーが活躍する場は広く、キャリアアップにもつながると思います。資格取得の第一歩としては非この機会に参加してみてもいいでしょう。

大規模災害対策訓練(DMAT実働訓練)・院内消防訓練

防災救命担当部長 井上 出

平成30年1月27日（土）、平成29年度九州・沖縄ブロックDMAT実動訓練が佐賀県南部地区を中心に実施されました。この訓練は、毎年1回九州・沖縄8県の持ち回りで実施されているもので、佐賀県内で実施する場合は4地域の輪番となっています。今回は当地域が発災想定であったため、約30年に1度の好機と捉え、当院も病院支援訓練の受援側として参

ど、日常の業務ではなかなか経験できない想定局面があり、当院の大規模災害対策に大いに参考となりました。



早いもので前回の受審から5年が経過し、6月12・13日の2日間で、5度目の審査が無事終了しました。ほとんどの気持ちと、もともと上手にアピールできる所はなかったかという不安な気持ちが交错しています。結果が出るのは数ヶ月先だそうです。

以前、日本二の高評価を頂いているブ

機能評価準備委員

重松かおり

加しました。大規模地震発生直後の指揮本部の立ち上げ、各部署からの被災状況報告、多数傷病者をS・T・A・R・T方式によるトリアージを実施しているところへD・M・A・Tが到着しました。当初当院に来るD・M・A・Tは2・3隊との想定でしたが、最終的に福岡、大分、熊本、長崎4県から、合計8隊のD・M・A・Tによる医療支援を受けました。災害トリアージはもちろん、多数傷病者受け入れの準備、情報の収集、記録、整理、そして、転院先手配な

また平成30年5月12日(土)には、院内の消防訓練を実施しました。今回の訓練のテーマは、「有毒な煙の認識と煙からの避難」としました。鹿島消防署、鹿島市消防団の協力を仰ぎ、まず「有毒な煙についての映像研修」、次に実際にスモークを充満させた部屋での「煙中体験」、そして「垂直式救助袋による避難」を行ないました。「一般家庭でのゴミ焼却が条例で規制されている昨今、私たちは煙にむせる経験をする機会が少なくなり

レシヤの中、病院機能評価準備委員を中心に、職員一丸となって取り組みました。今回の受審では、約半年前に機能評価準備委員会を設置し、委員長の伊山院長を中心に山口事務部長、原崎看護部長、太田課長、宮崎課長、村吉主任、安部主任、重松で準備を開始しました。前回と評価方法に大きな違いは無く、前回の評価を元に自己評価表を各部署で作成し、課題と思われる所の改善に取り組みました。

今回受審したバージンは、一般病院一

A group of people, likely emergency responders or students, are practicing drills in a large indoor space. They are wearing blue and red uniforms. Some are kneeling on the floor, while others are standing. They appear to be working with equipment or materials on the floor. The background shows a large room with other people and equipment, suggesting a training exercise.

〔3rdG:Ver2.0〕の「主として日常生活圏域等の比較的狭い地域において地域医療を支える中小規模病院を対象とするものでした。具体的には、「患者の視点に立った、良質な医療の実践」を評価する姿勢を明確にするために、患者中心の医療推進（第1領域）、良質な医療の実践1、2（第2、3領域）、理念達成に向けた組織運営（第4領域）の4つの領域で構成され、患者さんが医療を受ける流れに即した業務の評価なら



ど、より実質的な内容が評価されるように設定されていました。

1日目の午前中は各種マニュアルや書類の確認と面接、午後は、3・4階病棟概要確認(病棟訪問)とケアプロセス調査が行われました。ケアプロセス調査では、典型的な1症例を提示、外来受診から退院までの流れに沿って必要項目を確認され、その症例で確認できない項目は別患者の診療録を参考にして行われました。2階セミナー室に、症例に関わった全ての職種が集合し、各々が専門性を生かして日々行っている、当院自慢の「多職種協働フラット型チーム医療」の実践を伝える事が出来ました。今回の審査では、各項目が実践されていることを前提に、患者の視点に立った説明の仕方や理解度の確認、確認した内容がどのように診療録に残されているのかを確認されました。また患者の倫理的問題をどのように捉えて対応しているのかを確認され、日常の中にある様々な問題について倫理的な感性を高めて取り組むことの重要性を感じました。機能評価を受審し振り返ることで、また新たな課題を発見する事が出来てよかったと実感しました。

機能評価受審は、評価結果から明らかにした課題に対して、病院組織が継続して質改善に取り組む、更なる医療の質向上を図ることが目的です。病院の質向上は、全職員が強い意識を持って継続して取り組んでいくことがとても重要だと改めて感じました。今後も更なる進化を目指して頑張っていきたいと思います。最後に、本当にお疲れ様でした！

新任 Dr 紹介



(総合診療) 山下 駿

平成30年4月1日に、佐賀大学医学部付属病院総合診療部より着任しました内科(総合診療)の山下駿です。宮崎大学で初期臨床研修として2年、同大学の救命救急センターで救急医として2年、佐賀大学医学部付属病院総合診療部で総合診療医として2年勤務し、現在医師7年目となります。一人の人が複数の疾患を抱えていることが常識となっている現代において、患者様の疾病に関する悩みは多種多様です。それら患者様の悩みに幅広く寄り添い、一つ解決できる医師を目指し全力を尽くしていきたいと思っております。何分若輩者ですので、地域の先生方にお世話になることも多いかと思いますが、今後ともよろしくお願いたします。



(消化器内科) 岡本 憲

本年度より着任いたしました消化器内科の岡本憲洋です。佐賀大学消化器内科へ入局後、済生会唐津病院や済生会豊浦病院、好生館、佐賀大学病院に勤務して、織田病院へまいりました。専門は消化管で消化管腫瘍や炎症性腸疾患、内視鏡検査治療など、その分野のことでお困りのことがありましたらいつでもお声かけください。

また、専門外においても、「地域のお医者さん」として微力ながら尽力出来ればと考えております。一般内科としても、皆様が元気になるサポートが出来よう、患者様の背景を考慮した診療が出来ればと思います。鹿島の皆様のお役に立てるよう頑張りますので宜しくお願いいたします。



(消化器内科) 坂田 奈津子

本年度より勤務させていただきます。消化器内科の坂田奈津子と申します。佐賀大学を卒業後、済生会唐津病院や佐賀大学医学部附属病院にて外来と内視鏡を中心とした消化器の検査・治療を勉強してきました。ここ数年は産休と育休を繰り返して、内視鏡を中心とした

非常勤務を続けてきましたが、本年度より幼い頃より住み慣れたこの鹿島の地で勤務することとなりました。休職していた時期も長く、知識や技術に関しては他の先生に及ばないことも多くあるとは思いますが、内視鏡検査やピロリ菌の除菌などみなさまのお役に立てるよう努力して参りたいと思います。少しでも早く慣れて地域に貢献できるようがんばりますので、宜しくお願い致します。



(耳鼻咽喉科) 柴宮 夏子

本年度より勤務させていただきます。耳鼻咽喉科の柴宮夏子です。これまでは佐賀大学医学部付属病院で勤務しておりました。大学では頭頸部悪性腫瘍が多く、その他に咽喉頭・扁桃・鼻・耳疾患などを診ておりました。専門医研修となつてから初めて地域に根ざした医療を行うため、不慣れな点が多く先生方やスタッフの皆さまの力を借りることも多いと思います。自分の知識を深めて、さらにこの地域で医療貢献できるよう、一所懸命に取り組んでいきますので何卒よろしくお願い申し上げます。



(皮膚科) 永田 真央

本年度より佐賀大学皮膚科より着任致しました、皮膚科の永田真央と申します。佐賀大学を卒業後に2年間の初期研修を終え、昨年度は佐賀大学病院で勤務しておりました。

現在、入院・外来ともに診療させていただいておりますが、これまで大学病院では経験しなかった皮膚疾患を数多く診察する事ができ、私にとって成長の年になると確信しています。地域の先生方やスタッフの皆様のお力添えのもと、一人一人の患者様と丁寧に向き合い、適切な医療を提供できるよう頑張りますので、どうぞ宜しくお願い致します。



(総合診療部) 松藤 則子

本年度より勤務させていただきます。総合診療部の松藤則子です。佐賀大学卒業後、去年まで佐賀大学附属病院と佐賀県医療センター好生館で2年間研修医として勤務していました。もともと在宅

医療といった地域に根差した医療に興味があり、佐賀大学の総合診療部に入局することを決めました。在宅医療の最先端をいく織田病院で地域医療の在り方を学びつつ、地域に貢献できるよう診療を頑張りたいと思います。よろしくお願いたします。



(内科) 中山 翔太

平成30年6月より着任致しました内科の中山翔太です。これまでは嬉野医療センターで総合診療医として約2年ほど勤務をしておりました。これまでは誤嚥性肺炎や尿路感染症といった高齢者における Common Disease から原因不明の発熱や病態のはっきりしない患者さんの精査や治療まで各診療科と協力しながら診療をしてまいりました。

研修医時代を含め三次救急医療機関でしか勤務したことがなく、なかなか今までは患者さんの退院後の生活まで考慮した上で診療を行うことはできませんでした。地域医療に携わる身として当院では患者さんの生活背景まで踏まえ診療できればと思っています。早く慣れて地域に貢献できるよう頑張りますのでよろしくお願い致します。



(耳鼻咽喉科) 西嶋 利光

本年7月より織田病院へ耳鼻咽喉科医師として赴任いたしました。私は約30年前に4年ほど武雄に住んでおり、赴任が決まった際には当時の情景などを思い出しつつ懐かしい想いになりました。実際こちらへ赴いてからは、当時との変化に驚きながらも、当時のままの稲荷羊羹を懐かしみながらいただきました。これまでは、鼻や喉を中心に、良悪性問わずに、手術や薬物治療など幅広く学んでまいりました。これから小宗所長の下、耳を中心に研鑽を積んでまいります。できるだけ地域の皆様にお役立ていただきたいと考えておりますので、耳のことはもとより、鼻や喉に関しても良悪性問わずいつでもご相談・ご紹介をお願いします。プライベートでは、釣りやゴルフ、テニスを嗜みますので、機会がありましたらお誘いいただければ幸いです。早く地域の一員となれるよう精進いたしますので、何卒よろしくお願い致します。

ゆうあいビレッジ20周年記念祝賀会・グループホームゆうあい3丁目竣工神事・ゆうあいふれあいフェア2018同時開催！ ～こどもから大人まで笑顔満載～

ゆうあいビレッジ副施設長 諸岡 義彦



6月24日（日）ゆうあいビレッジ20周年とグループホーム3丁目の完成を記念して祝賀会と竣工神事が行われました。今回はそれに加え、「地域に開かれた施設を目指す」の理念の基、多くの方々にゆうあいビレッジを楽しみながら知ってもらう事を目的とした「ふれあいフェア2018」も同時開催となりました。

当日は皆の気持ちを通じたのか梅雨真ただ中での晴天に恵まれました。10時からの祝賀会には、鹿島市長を始め地元の皆様約100名をお招きいたしました。ゆうあいホールにはホテルからケイタリングされた料理が並び、ホテルスタッフも配置され、まさにパーティー専用ホールとなりました。祝賀会が乾杯に移る頃、外の

特設ステージでは、ゆうあいふれあいフェアがスタートしました。特設ステージは、おマサばあちゃんとか六じいちゃんやの登場でスタートし、鹿島ブラスセクション、鹿島保育園、嬉野高校ソングリーダー、大道芸人フーミン、すいかの早食い競争、三輪車レース表彰、お楽しみ大抽選会と切れ目なく盛り上がりました。その他

ビレッジ敷地内には無料カフェ（お菓子付き）や6施設を巡るスタンプラリー、射的、ヨーヨー釣り、スーパースポーツ、バルーンアートなどのコーナーが設けられ子供達で大賑わいでした。また、リニューアルされたふれあいパークでは企業対抗の三輪車レースが開催されました。16チームの参加があり、こちらも若い人たちの



のエネルギー大爆発で大変盛り上がりしました。企業の展示ブースでは、福祉車両の展示や介護機器・介護用品の展示も行われました。更に今回新たに、コラボレーションとして『ゆうあいまるしえ』を開催、24店舗もの出店があり、リラクゼーション・ハンドメイド・ワークショップ・飲食コーナーと種類も多岐にわたり、県内外からのファンも観えるほどの人気ぶりでした。

今回は3つのイベントの同時開催ということで、法人単独では最大規模のイベントでしたが、同程度の規模のイベントを平成23年に

経験していたためか、スタッフのみなさんの計画性そして実行力には目を見張るものがありました。フェアが終わって、その日の夕方、近所のスーパーで買い物をしていた時、奥様達の話し声が聞こえてきました。「今日は、ゆうあいフェア行ったよ、あれはよかよ、楽しかったよ」と、おもわず陰でガッツポーズしてしまいました。

地域での他の催しや田植え時期と重なった中で900名近い人が訪れてくれたこと、こどもから大人まで笑顔満載のフェアになったこと、職員全員の協力によるこのチーム力は胸を張れると強く感じたこと、準備までの苦労も吹き飛ばす感動の1日になりました。皆様本当にお疲れ様でした。



平成30年度 ゆうあい新人歓迎会

看護部 川下 勝利

平成30年4月14日（土）に祐愛会新人歓迎会が、長崎県佐世保市のハウステンボス内ホテルヨーロッパにて開催され、総勢233名のスタッフが参加しました。

今年度の新入職者は法人全体で32名（織田病院23名、ゆうあいビレッジ9名）で、法人全体の職員は537人となりました。

歓迎会は織田理事長の挨拶、伊山院長の乾杯に始まり、新入職員による挨拶では、これからの仕事に対する熱意を感じるとともに、私も入職した頃の気持ちを思い出して良い刺激を受けました。二次会では、デハール号を貸しきり、新入職員をはじめ、病院、ゆうあいビレッジの職員からの歌や踊りの様々な余興が行われ、とても楽しいひと時を過ごしました。

新入職員の皆さん、入職後の業務習得で忙しくされていると思いますが、祐愛会はとても仲間を大切に、お互いが切磋琢磨して成長できる素晴らしい職場です！分からないことは先輩や同僚に相談し、しっかりと目的をもって行動することで、自分自身の成長へと繋げて下さい。患者様・利用者様・地域の皆様へ貢献ができ、スタッフも満足できる職場作りを祐愛会全体で盛り上げていきましょう！

合格 おめでとう

【織田病院】

◆看護師

小笠原 文華
松枝 聡子

◆准看護師

吉富 美季
坂本 麻菜
北島 明日香
小柳 奈央
中島 優希
ニルゲデエカ ユリディアワティ

◆認知症ケア専門士

草場 圭子

【ゆうあい・ブレッシング】

◆社会福祉士

神近 節子

◆介護福祉士

永池 文博
山口 由華理

第12回 愛野由美子 ピアノコンサート

ケアコートゆうあい 瀬上 敏文

5月17日(木)、19時からケアコートゆうあい1階ホールにて、『第12回 愛野由美子ピアノコンサート』を開催しました。心配された雨も振らず、多くの方にご来場いただきました。

今回はアンコールを含め全7曲をご披露いただき、美しい音色とともに心地良い時間が過ぎて行きました。演奏終了後には多くの拍手が送られ、盛会のうちに幕を閉じました。

愛野由美子様にご参加いただいた皆様ありがとうございました。

【当日のプログラム】

前半

・平均律1巻6番 バッハ
・作品2「パヴィヨン」 シューマン
・ソナタ6番1楽章 ベートーベン

後半

・幻の騎士・飛翔 ギロツク
・即興曲 作品84の5 フォーレ
・ベルガマスク組曲 ドビュッシー
アンコール
・ソナチネ クレメンティ



部活動報告 CLUB Report

野球部

医療安全管理部 山口 健太

こんにちは。祐愛会野球部です。祐愛会野球部は発足して20数年を数える当院では一番歴史が長いクラブです。現在部員は15名前後で、谷口監督を中心に抜群のチームワークで、4月に開催された「鹿島市長杯争奪軟式野球大会」では見事ベスト4まで進出することができました。新しい戦力も加入し、その若い力に負けなように30歳後半～40歳代のベテランも必死にプレーしています。

今後の活動ですが、鹿島市内の一番大きな大会、「佐賀県アマチュア王座決定戦～鹿島市予選～」に出場予定です。この大会では、過去に2回、代表決定戦まで進んだものの惜しくも敗れてきました。祐愛会野球部は、鹿島市内のどのチームよりも団結力があり「今年こそは県大会出場!」という目標に照準を合わせ練習試合等に励んできました。今年は必ずこの大会で優勝を勝ち取り、県大会に出場し、佐賀県で唯一プロ野球の試合も行なわれる『みどりの森県営球場』で堂々と入場行進を行いたいと思っています。

時間がある方はぜひ蟻尾山野球場まで足を運んで頂き、応援をよろしくお願いします(おだびたるが発刊される頃は準決勝もしくは代表決定戦を戦っているはずです!)

皆さんの応援を力に、今年こそは必ず県大会へ行きたいと思います!



夏バテ 予防 レシピ

夏は暑さから食欲が落ちたり、食事が少なくなりがちです。食欲がないからと食事をおろそかにすると体力が落ち夏バテが長引くなど悪循環に陥ってしまいます。今回は暑い夏を元気に乗り切るため夏バテ予防に必要な栄養素とレシピを紹介します。

夏バテ予防に効果的な栄養素は『たんぱく質、ビタミン、ミネラル』でこれらをバランスよくとることが大切です。

たんぱく質：しっかりとした体を作るのに必要な栄養素…肉、魚、卵、大豆製品、乳製品など

ビタミンB群：糖質や脂質をエネルギーに変えるために必要な栄養素。疲労回復にも効果的

…豚肉、レバー、うなぎ、大豆、玄米など

☆にんにくやニラ、葱などアリシンを含む食品と一緒にとることで吸収がUPする

ビタミンA・C：体の抵抗力を高める…トマト、南瓜、ピーマン、ニラなどの夏野菜

ミネラル：体の動きを調整、維持するために必要な栄養素…海草、きのこ、野菜類

生姜やしそなどの香味野菜やカレー粉などの香辛料などには食欲増進作用、酢やレモン、梅干しなどに含まれるクエン酸にも疲労回復作用があるので一緒にとると効果的です。

食欲がないと麺類など炭水化物に偏った食事になり栄養バランスが崩れやすくなりますがこれらの栄養素を意識してとるようにし夏バテせずに夏を乗り切りましょう。

栄養食事サービス部 管理栄養士 瀧 明子

☆豚肉のスタミナ焼き

材料(1人分)

豚肉………60g
玉葱………10g
片栗粉………1g
サラダ油…1.5g
生姜………1g
にんにく…0.5g
めんつゆ(2倍)…8g
醤油………1g
砂糖………2.5g
酒………3g
酢………3g
水………5g

<作り方>

- ①玉葱はくし形に切る。
- ②豚肉は食べやすい大きさに切る。
- ③Aの調味料を合わせておく。
- ④熱したフライパンにサラダ油を加え玉葱を炒める。
- ⑤玉葱に火が通ったら豚肉に片栗粉をまぶし炒める。
- ⑥豚肉に火が通ったら③の合わせ調味料を加え、味をなじませる。
- ⑦味が馴染んだら出来上がり。



☆トマトときゅうりのサラダ

材料(1人分)

トマト………40g
きゅうり…20g
深ねぎ………15g
すりごま………2g
めんつゆ(2倍)…6g
ごま油………1.5g
砂糖………0.1g

<作り方>

- ①トマトは一口大に切る。
- ②きゅうりは乱切りにし軽く塩もみし、水で洗い塩気を切る。
- ③深ねぎはみじん切りにしレンジで500w30秒加熱しておく。
- ④Aの調味料を合わせ③を加える。
- ⑤きゅうり、トマトと④の調味料を混ぜ合わせる。



A

私はこの本を読んで、自分の医療事務職としての業務が迅速で丁寧な対応になっているのか？日々のような気持ちで患者様に接しているのか？など省みながら、客観的な視点から考え、学ぶことが出来ました。例えば受付業務は、患者様と最初に向かい合う「病院の顔」として病院の第一印象を決める重要な役割を担っています。自分の体調や気分に関わらず、常に笑顔で明るく臨機応変に対応することができていますか？改善点がないか？などについても改めて考えさせられました。また、患者様からの質問に対して、もつとわかりやすく答えることができたのではないかと？答え方は適切だったのか？などの反省点も多数ありました。この本で学んだことを今後の対応にどう生かしていけばよいか日々考え続け、患者様に寄り添う対応で織田病院に貢献していきたいと思っています。

ブックエンド

医事課 杉光 七輝

『医療事務のすべてがわかる本』

監修者…青地 記代子
発行所…株式会社 日本文芸社

この本には「レセプト(診療報酬明細書)やカルテ(診療録)、医療職のおもしろい点や魅力、資格の種類や資格をとるための方法、スキルを生かせる医療機関の紹介、給与・休暇等の待遇」など、医療事務に関する多くの情報が詳しく書かれており、タイトル通り医療事務のすべてがわかる本となっています。

新入職員の皆様はそろそろ職場環境に慣れてきた頃でしょうか。今年の夏も暑くなるとは思いますが、暑さに負けず仕事に私生活に頑張ってくださいませ。

編集後記

手術センター 谷口 繁樹

病院では、機能評価準備委員会を中心として各担当部署、委員会準備を行い、6月12日・13日に5回目の病院機能評価を受審しました。担当された皆さんお疲れさまでした。無事に終わりの一息つかれている所だと思います。今回の受審で新たな改善点が見えてきたと思います。今後改善を積み重ねて素晴らしい病院を作っていきたいと思っています。

また、この夏、ゆうあいではグループホームが新たに完成しました。超高齢社会、2025年問題に対応するために、これから益々、在宅に向けた取り組みが重要となります。1人1人のスタッフが専門職としての知識と技術を高めながら、皆で一丸となって躍進していきましょう。

